

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62199	奥飛騨温泉郷イベント開催事業	担当課	上宝支所 基盤産業課	内線
種別					3931
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	O A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 観光振興費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	対象者数	3,189 人
	どのような状態にしたいのか(意図)	・交流人口(観光客)の増加による地域の活性化		
概要	事業の実施手法(手段)	・奥飛騨温泉郷の地域特性や自然環境を活かした集客イベントを四季を通じて実施する		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	「新穂高温泉中尾かまくらまつり」等、15の集客イベントを開催					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	イベント開催回数	回	目標値	15	15	15
				実績値	15	15	15
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	成果指標	イベントへの来客数	人	目標値	75,000	75,000	75,000
				実績値	51,900	53,800	47,600
				算出根拠等	達成率(%)	69	72
	成果指標	奥飛騨温泉郷への年間入込客数	千人	目標値	1,500	1,500	1,500
				実績値	1,170	1,182	1,082
				算出根拠等	達成率(%)	78	79
	成果指標			目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
	成果指標			目標値			
実績値							
算出根拠等				達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 13,300	12,100	9,800		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		13,300	12,100	9,800		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 3,888	3,602	2,985		
	受益者		上宝支所管内の市民(4月1日現在) (B) 3,421	3,359	3,283		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・開催されているイベントは、観光客のみならず地域住民にとっても楽しめるものであり、地域の活性化向上に貢献できるものである
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・当該事業は、(一社)奥飛騨温泉郷観光協会が中心となり組織する「奥飛騨温泉郷イベント実行委員会」が実施しており、市民と行政が一体となって誘客や地域の活性化に取り組む上で、市が参画することは妥当である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・自然災害等の影響もあり全体での入込客数は減少したが、継続して開催されているイベントの知名度も上がり、イベント目当ての観光客は増加しつつある。また、近年は外国人観光客が増加しており、奥飛騨温泉郷における外国人宿泊客に対する受入体制の整備について検討する必要がある
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・イベント内容や開催回数、開催手法の見直しを行い事業コストの削減に努めたが、観光客の興味を引くことや喜ばれるためのイベント開催を実施するためには、ある程度の投資は必要である
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・奥飛騨温泉郷全体の入込客数が若干の減少傾向である中、イベントへの来客数も減少となった。要因の一つとしては、悪天候等の影響によるものが考えられるが、今後の宿泊客数の増加を目的とし、地域の特徴を活かしたイベント開催を検討する必要がある
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・悪天候等の影響により入込客数、イベントへの来客数ともに減少したが、今後は宿泊客数増加に繋げるための新たな企画・体制の構築が必要である
---------------------------------------	---------------------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	95199	地域スポーツ振興事業 (スキー大会支援事業)	担当課	上宝支所 地域振興課	内線	3913
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5 保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 体育総務費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	大会に参加する児童数	対象者数	130 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	地元でのジュニアスキー大会開催により、スキー人口減少の抑制、スキーレベルの向上と交流人口の増加に伴う地域の活性化に資する。		
概要	事業の実施手法(手段)	平湯温泉大滝山ジュニアアルペンスキー競技大会 ・上位入賞者への賞品(トロフィまたは帽)の授与		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	スキー大会参加者 N=127名						
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	活動指標	スキー大会参加者	人	目標値	120	126	107	
				実績値	111	102	127	
	算出根拠等			達成率(%)	93	81	119	
				目標値	105	105	105	
	成果指標	参加者増加率	%	実績値	96	92	125	
				算出根拠等	当年参加者数/前年参加者数	達成率(%)	91	88
	算出根拠等			目標値				
				実績値				
	算出根拠等			目標値				
				実績値				
	算出根拠等			目標値				
				実績値				
	算出根拠等			目標値				
実績値								
算出根拠等			目標値					
			実績値					
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額			
	歳出(千円)		(A)	67	67	67		
	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				67			
	一般財源			67	67	67		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	604	657	528		
	受益者	大会参加者	(B)	111	102	127		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	スキーレベル向上策のみにとどまらず、冬季観光の誘客イベントとして必要である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市が上位入賞者に対し、賞を授与することで、市の7次総目標「人々のこころを魅了する滞在型、通年型の観光地づくりを行う(多様な観光需要への対応)」を具現化している。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	大会参加者数は、若干の増減はあるものの、ほぼ横ばい傾向である。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	競技種目が固定されているため、賞の数量を減らす余地はない。また、「賞」であるがゆえ安価な物品の授与であっても入賞者にとって技術向上に対する意識高揚に繋がる。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	冬季の観光誘客に加え、入賞を目指して大会全体のレベル向上が図られていることから、市の7次総目標「競技スポーツの普及と競技力の向上を図る」に繋がる効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)

・参加者を増加させるためには、大会参加者である小学生にとって魅力ある賞品の授与が効果的である。限られた予算のなかで、小学生の意識高揚に繋がる賞品を選択が求められる。

(参考) H26事業評価結果 (二次評価)	26年度終了
-----------------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	21899	巨樹巨木保護事業		担当課	上宝支所 基盤産業課	内線	3931
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	18	環境政策費		D	その他事業	
根拠計画							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・林野庁の「森の巨人たち百選」に選定された「平湯の大ネズコ」の保全及び周辺環境整備		
概要	事業の実手法(手段)	・保全団体へ補助金を交付することにより、保全管理・周辺環境整備・広報活動を支援する		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	環境整備 8回 学習会の開催 1回					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	整備回数	回	目標値	4	4	4
				実績値	8	9	8
	成果指標	学習会の開催	回	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	1
	算出根拠等	算出根拠等	達成率(%)	200	225	200	
			算出根拠等	達成率(%)	100	100	100
	算出根拠等	算出根拠等	目標値				
			実績値				
	算出根拠等	算出根拠等	達成率(%)				
			算出根拠等	達成率(%)			
	算出根拠等	算出根拠等	目標値				
			実績値				
	算出根拠等	算出根拠等	達成率(%)				
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	50	50	50	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			50	50	50	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1	1	1	
	受益者 全市民(4月1日現在)		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・国(林野庁)の選定であるため、「平湯大ネズコ」の保全は市民のみならず国民全体の財産の保全に繋がる ・国立公園内に位置し自然保護のシンボリックな巨木であり、観光面における知名度としても徐々に定着しつつあり、ニーズは高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・事業主体は平湯巨樹巨木保全協議会であり、市が自然環境の保全・環境教育活動の助成を行うことは妥当である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・毎年学習会を開催しているが、認知度不足により回数が増加しない ・事業主体の予算規模が小さく、十分なPRができていない
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・限られた予算の中で保全団体の創意工夫により、訪れる人々の安全や景観保全等のための整備が行われている
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・長い年月を経た巨木は環境保全や生物多様性のシンボリックな存在であり、地元小学校の自然学習教材となるなど、市長の公約実現に向けた取り組みを行っている
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・更なる知名度向上のために、市役所内の関連部署や観光協会を始めとする関係団体と連携してPRする必要がある
---------------------------------------	------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	31399	地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)	担当課	上宝支所 地域振興課	内線
種別	1	一般会計	位置付け	特別予算	3911
予算	会計	1	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	3		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	3	D	その他事業	
根拠計画	高山市老人福祉計画・第6期介護保険事業計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	対象者数	9,490 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	地域を基盤とした老後の社会活動の円滑な展開まちづくへの高齢者の参画の促進		
概要	事業の実施手法(手段)	高齢社会を支えるうえで大きな役割を担っている老人クラブに対し、高齢者の生きがいと健康づくり、福祉の向上のために助成することにより、各種活動の育成、支援を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	市連合長寿会に対する支援 ・会員及び各区、「単位クラブ」に対する活動助成 ・事務局人権費に対する助成					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	連合長寿会会員数	人	目標値	10,000	10,000	10,000
				実績値	9,584	9,677	9,751
	算出根拠等	達成率(%)		96	97	98	
	活動指標	連合長寿会単位老人クラブ数	クラブ	目標値	143	139	138
				実績値	139	138	137
	算出根拠等	達成率(%)		97	99	99	
	活動指標	連合長寿会加入率	%	目標値	40.0	40	40
				実績値	38	37	37
	算出根拠等	連合長寿会加入者数/65歳以上人口		達成率(%)	95	93	93
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等	達成率(%)					
				目標値			
			実績値				
算出根拠等	達成率(%)						
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 420	420	420		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)	150	149	194		
	一般財源	270	271	226			
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B) 515	516	453			
	受益者	上宝地区会員数(4月1日現在) (B)	816	814	928		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	高齢者が住み慣れた地域で、他の高齢者や住民と交流を持ちながら健康で日常生活を送るための活動として、市民の関心は高く、地域活動にも根付いているが、高齢者のニーズの多様化により加入率は減少傾向にある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市は、老人福祉法(第十条の三第一項)の規定により、老人クラブなどの老人福祉を増進する目的とする事業を行う者の活動の連携及び調整、地域の実情に応じた体制整備に努めなければならないため。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	老人クラブ数及び加入率は、減少傾向であるため、役員等により、組織や活動の見直しに取り組んでいる。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	長寿会活動に参加することにより、高齢者の健康増進と閉じこもり予防が図れた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・市全体として新規加入者の割合が減少しており、連合長寿会会員加入率と単位クラブの減少が課題となっている。健康で生きがいを持ちながら生活するために、地域とのつながりを深めながら、今後一層の充実と活発な取り組みが必要である。
----------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	53199	大規模林道環境保全事業		担当課	上宝支所 基盤産業課	内線	3931	
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	5	農林水産業費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	3	林業費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	1	林業総務費		D	その他事業		
根拠計画	地域振興計画							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	対象者数	3,189 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・上宝支所地域、特に双六地区の活性化と観光客の誘致のために、安心・安全な交通環境を整備する		
概要	事業の実施手法(手段)	・沿道の草刈 ・崩土除去、側溝清掃 ・災害防除工事		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・沿道の草刈 ・崩土除去、側溝清掃 ・災害防除工事						
成果面	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	活動指標	草刈延長	km	目標値	5	5	5	
				実績値	6	6	5	
	成果指標	算出根拠等	千人	達成率(%)	120	120	100	
				観光客の入込客数	目標値	1,500	1,500	1,500
	成果指標	算出根拠等	千人	実績値	1,170	1,182	1,082	
				達成率(%)	78	79	72	
	成果指標	土砂崩壊等による通行止め日数	日	目標値		0	0	
				実績値		0	7	
	成果指標	算出根拠等		達成率(%)				
				目標値				
	成果指標	算出根拠等		実績値				
達成率(%)								
成果指標	算出根拠等		目標値					
			実績値					
成果指標	算出根拠等		達成率(%)					
			目標値					
成果指標	算出根拠等		実績値					
			達成率(%)					
補足事項								
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額			
	歳出(千円)		(A)	762	5,498	747		
	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
	一般財源			762	5,498	747		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	223	1,637	228		
	受益者		上宝支所管内の市民(4月1日現在)	(B)	3,421	3,359	3,283	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地区住民には生活道路及び森林作業路として、観光客には清流双六川への導入路として必要な路線である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市が管理する道路であるため、市が実施する必要がある
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・局地的な集中豪雨等により一部の裏面崩落があったが、利用者が安全・安心に通行できるよう維持管理には努めた。一方、観光道路として誘客のためのPRが不足している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・草刈りは見通しの悪いカーブの視距確保による交通安全対策の面からも必要な事業であるため、コスト削減を作業延長の減少で行うことは困難である
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・生活・観光道路の確保、林業振興、物流の促進等で効果が上がっている
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・地域の活性化を図るための誘客に繋がるPRIに力を入れる必要がある
---------------------------------------	-----------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62299	新穂高登山者用駐車場管理事業	担当課	上宝支所 基盤産業課	内線
種別					3931
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	2 観光施設費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝市所地域の住民	対象者数	3,189 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	観光客受入体制の整備		
概要	事業の実手法(手段)	登山シーズンにおける登山者用駐車場の交通整理及び警備、仮設トイレ設置、場内清掃業務を委託により実施 登山者用駐車場の増設		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	駐車場交通整理及び警備 51日(4~10月) 仮設トイレの設置及び管理清掃 7~11月					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	交通整理及び警備日数	日	目標値	50	61	66
				実績値	44	46	51
	成果指標	算出根拠等	達成率(%)		88	75	77
				飛騨側からの登山者数	人	目標値	37,300
		算出根拠等	達成率(%)		107	96	102
				実績値	39,938	37,606	42,172
		算出根拠等	達成率(%)				
				実績値			
	算出根拠等	達成率(%)					
			実績値				
補足事項							
・活動指標の交通整理日数は達成率が低い方が良好							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 2,467	2,698	9,056		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		2,467	2,698	9,056		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 721	803	2,758		
	受益者		上宝支所管内の市民(4月1日現在) (B)	3,421	3,359	3,283	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・登山は早朝の出発が多いため、公共交通機関の利便性が悪い飛騨側ではマイカーの利用が多い ・最盛期には早朝より満車となり、代替駐車場への誘導を余儀なくされているため、ニーズは非常に高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市の公園事業として実施しているため、見直しの余地はない
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・駐車場の収容台数に限りがあるものを除き、現場における混乱や苦情はない
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・登山ブームの高まりとともに駐車場が満車となる日が増加しているが、登山は天候や曜日の並びに左右されるため、コスト縮減を警備日数で調整することは困難である
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・受入体制の整備により飛騨側から北アルプスを目指す登山者が増加しているが、駐車場の収容台数に限りがあるため、路上駐車増加による観光地としてのイメージダウンもあった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にすることを何が必要なのかを記入)	・新穂高渓流で減少した市営駐車場の収容台数を補うため、収容台数の増加が必要 ・収容台数の増加が必ずしも路上駐車減少に繋がらない恐れがある
----------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62399	北アルプス飛騨側登山道等維持管理事業	担当課	上宝支所 基盤産業課	内線
種別	1	一般会計	位置付け	特別予算	3931
予算	会計	1	一般	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6	商工費	○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2	観光費	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
目	3	自然公園費	D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	対象者数	3,189 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・登山道及び道標の整備による北アルプス登山者の安心・安全確保及び周辺整備		
概要	事業の実手法(手段)	・登山道整備の実施団体である「北アルプス飛騨側登山道等維持連絡協議会」に対し、事業実施費用の一部を負担金として支出する		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・会議、打合せ 3回 ・登山道整備(6~10月) ・標柱の設置、修繕 2箇所(7月) ・危険箇所等現地踏査(7~10月)					
	指標名 単位 目標・実績 H24 H25 H26						
	活動指標	協議会との打合せ	回	目標値	3	3	3
		算出根拠等		実績値	6	5	3
		算出根拠等		達成率(%)	200	167	100
	成果指標	飛騨側からの登山者数	人	目標値	37,300	39,200	41,200
		算出根拠等		実績値	39,938	37,606	42,172
		算出根拠等	登山者は飛騨側での登山届提出数	達成率(%)	107	96	102
	活動指標	算出根拠等		目標値			
		算出根拠等		実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
	活動指標	算出根拠等		目標値			
		算出根拠等		実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
	補足事項						
・活動指標の交通整理日数は達成率が低い方が良好							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円) (A)		2,000	2,000	2,000		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		2,000	2,000	2,000		
コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)		585	595	609		
	受益者 上宝支所管内の市民(4月1日現在) (B)		3,421	3,359	3,283		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・近年の中高年齢を中心とした登山ブームにより、登山者が安全、安心に登山を楽しむためには登山道の安全確保は重要な課題でありニーズは高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・当事業は山小屋を中心となり組織する「北アルプス飛騨側登山道等維持連絡協議会」が実施しており、市民と行政が一体となって北アルプスの環境整備を実施することによる地域の活性化を図る上で市が参画することは妥当である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会や奥飛騨温泉郷観光協会へ山の状況等に関する問い合わせはあるが、登山道に関する苦情は入っていないため、整備の効果は上がっている
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・山小屋を中心として組織する団体が登山道等の整備を実施する方法は、請負による整備よりコスト削減に繋がっている
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・飛騨側からの登山者数は年々着実に増加しており、公約の実現に寄与している
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・長野県側からの北アルプス登山者数は岐阜県側(飛騨側)の約5倍あり、登山者数の上積みにはPRが欠かせないものとなる
----------------------------------------	-----------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	72199	市道未登記用地測量事業		担当課	上宝支所 基盤産業課	内線	3941
予算	会計	1	一般会計	特別 予算 の 位置 づけ	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	道路橋りょう費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	道路橋りょう総務費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	対象者数	3,189 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	未登記路線の登記整理(旧町村時代に、未登記のまま道路整備した路線の登記を市へ(寄附)移転する)		
概要	事業の実施手法(手段)	岐阜県公共囁託登記土地家屋調査士会へ業務委託し、路線ごとに処理を進める。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	市道18路線の未登記処理を実施した。 葛山2号線、長倉1号線、古橋立平線、双六日影線、中山双六線、見座タダノ線、上北線、寺林線、平湯3号線、平湯不動線、ヲノ線、田頃家1号線、田頃家2号線、田頃家3号線、田頃家5号線、田頃家7号線、一重ヶ根2号線、村上一重ヶ根線					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	未登記解消(業務発注路線数)	本	目標値	10	10	12
				実績値	10	16	18
				達成率(%)	100	160	150
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
実績値							
達成率(%)							
算出根拠等			目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	16,626	19,931	16,062	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			16,626	19,931	16,062	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	4,840	5,934	4,892	
	受益者		上宝支所管内の市民(4月1日現在)	(B)	3,435	3,359	3,283

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	市道を市有地とすることは、道路通行における市民の安心・安全につながる。また、事業実施により、土地所有者の資産管理に資するとともに、固定資産税の負担が軽減される。近年の土地所有の流動化の進行等により、事業の早期実施が求められている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	道路管理者として、市が事業主体となり実施すべき事業である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	毎年着実に事業は進捗しているが、全体から見るとまだ十分ではない。また、個人の資産に係る問題であるため、複雑な相続関係や寄付に対する地権者の不同意等、処理が困難な場合がある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	近接している路線は極力同一年度に事業実施するなど、効率化を図っている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	境界の明確化により、道路改良・維持補修事業実施の円滑化、固定資産税賦課の適正化、民有地の土地売買等の円滑化等の効果がある。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にすることを何が必要なのかを記入)

道路が拡張された経緯が不明な路線があり、地権者の代替わりや所有権の移転等で、登記に際し寄附のお願いをするだけではなかなか理解が得られない場合がある。相続の手続きがなされておらず、数次相続になっていたり、相続人がいない場合等、登記に関する手続き自体が困難な事例がある。

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○ H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	74799	湯の花街道環境保全事業		担当課	上宝支所 基盤産業課	内線	3941
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	都市計画費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	快適環境整備費		D	その他事業	
根拠計画							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	国道471号通過車両	対象者数	特定出来ず
	どうい状態にしたいのか(意図)	湯の花街道の景観美化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	湯の花街道の草刈り、清掃、樹木の剪定、雪囲いの設置・撤去業務委託		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	湯の花街道(国道471号)沿いのポケットパークなどの草刈り、樹木の剪定、花壇の植樹や草取り、樹木の雪囲いの設置・撤去					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	草刈り及び樹木剪定等の維持管理対象道路延長	km	目標値	30	30	30
				実績値	30	30	30
	算出根拠等	国道471号道路延長L=30km	達成率(%)	100	100	100	
			目標値				
	算出根拠等		実績値				
			達成率(%)				
	算出根拠等		目標値				
			実績値				
	算出根拠等		達成率(%)				
			目標値				
	算出根拠等		実績値				
			達成率(%)				
	算出根拠等		目標値				
実績値							
算出根拠等		達成率(%)					
		目標値					
算出根拠等		実績値					
		達成率(%)					
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	1,413	1,413	1,422	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,413	1,413	1,422	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)				
	受益者		(B)				

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	湯の花街道(国道471号)は北陸方面から奥飛騨温泉郷へのアクセスルートであり、また、松本～富山間の最短ルートであることから、交通量が曜日・昼夜を問わず多く、観光・産業に欠かせない重要な幹線道路となっている。道路と並行する高原川を含む景観保全や休憩に利用されるポケットパークの環境保全は地域振興に欠かせないものであり、重要な事業となっている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	環境保全や地域活性化には欠かせない事業ではあるが、ポケットパーク用地は道路改良で生じた残地を利用しているため、道路管理者である岐阜県古川土木事務所と協議を行い、事業を引き継いだ。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	湯の花街道の景観が保たれている。 高原川での鮎釣り等漂流釣りの駐車場としての利用が増加していることから、地域活性化に貢献している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	花の支給等により委託費用を削減し、出来る限り広範囲を実施できるよう取り組んでいる。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		6 / 8	→	100点換算 75 点

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)

道路管理者である県へ事業を引き継いだが、今後確実に実施される保証はない。今後は「協働のまちづくり」事業や、農地・水保管理支払い交付金事業等、地域のボランティア活動による実施も視野に入れていく必要があるが、かかる費用負担に課題がある。

(参考) H26事業評価結果(二次評価)

26年度終了

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況

26年度終了

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	91499	中学校部活動生徒送迎事業	担当課	上宝支所 地域振興課	内線
種別					3913
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9 教育費		○	B 一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1 教育総務費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	3 スクールバス管理費		D	その他事業
根拠計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	北稜中学校生徒	対象者数	97 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	北稜中学校の土曜日における部活動にスクールバスを運行し、遠距離通学生徒に対する参加機会の均衡を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	土曜日の部活における送迎 ・通年(長期休業期間を除く全土曜日)実施 ・路線(中尾線・平湯線) ・経費(賃金、燃料)		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	延べ利用生徒数 N=1,670人					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	スクールバス運行回数	回	目標値	42	43	43
				実績値	39	40	42
				算出根拠等	達成率(%)	93	93
	成果指標	延べ利用生徒数	人	目標値	1,800	1,376	1,955
				実績値	1,170	1,960	1,670
				算出根拠等	達成率(%)	65	142
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
実績値							
算出根拠等				達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	523	527	532	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			523	527	532	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	5,876	5,218	5,485	
	受益者	北稜中学校生徒数	(B)	89	101	97	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	市内でも最広大で起伏に富んだ地形であり、かつ全域に住家が散在しているため、運行の確保が強く求められている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	スクールバスと同一の運行経路であり、かつ休日等で遊休車両となっているスクールバスを活用しているため、スクールバス運行者である市が事業主体となることが最も効率的である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	居住地域に関係なく、全生徒が等しく部活動に参加することができ、心身ともに健全な学校生活を送ることができる。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	部活動であるがゆえ、運行予定や乗車人数がほぼ固定されているため、必要最小限の運行形態、運行コストで、十分な効果を得られる。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	遠隔地を抱える地域の特性であり、均衡ある教育環境の整備に努める必要性からも大いに効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	10 / 10	→	100点換算	100 点
----	---------	---	--------	-------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	現状維持が適切である。
---------------------------------------	-------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)	課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94199	花いっぱい運動推進事業 (花苗購入)		担当課	上宝支所 地域振興課	内線	3913	
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算の	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	9	教育費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	1	社会教育総務費		D	その他事業		
根拠計画	地域振興計画							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	対象者数	3,189 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	町内会や施設に対し花苗を配布し、地域や道路沿いの花壇での植栽管理を実施してもらうことで、地域全体を花で飾り市民意識の具現化を図る		
概要	事業の実手法(手段)	町内会等に配布する花苗の購入(春秋2回6種類)		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	花苗植栽参加団体数	延べ53団体 (春・秋)						
	活動指標	花苗注文数	個	目標値	50,000	H25	50,000	H26	53,000
		実績値	61,000	57,016	58,713				
	成果指標	算出根拠等	各町内会からの要望数	達成率(%)	122	114	111		
		花苗植栽参加団体数	件	目標値	42	60	60		
	実績値	54	49	53					
	算出根拠等	町内会等参加団体数(延べ)	達成率(%)	129	82	88			
	算出根拠等	目標値							
		実績値							
	算出根拠等	目標値							
		実績値							
	算出根拠等	目標値							
		実績値							
	算出根拠等	目標値							
		実績値							
補足事項									
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額				
	歳出(千円)	(A)	2,375	1,998	2,000				
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
	一般財源		2,375	1,998	2,000				
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	684	595	609				
受益者	上宝支所管内の市民(4月1日現在)	(B)	3,474	3,359	3,283				

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	多くの町内が継続して花苗を大量に注文していることから、地域住民の環境美化に対する市民ニーズは高い。また、新たな種類の花苗を注文する町内もあることから、地域が積極的に当運動に取り組んでいると考えられる。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	花いっぱい運動は市民意識の精神に基づき展開しているため、市が花苗を提供し地域が維持管理する、市と地域が一体となった環境美化の推進は、市の事業として極めて妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	多くの町内や施設等の団体が当事業に参加し、各団体に所属する市民が共同作業で維持管理し、地域全体で参加していることから、目的は十分に達成している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	年2回、町内会等の各団体からの花苗希望を取りまとめつつ、大量に購入するため、花苗の単価は非常に安価であり、且つ補付及び維持管理は地域市民による共同作業によることから市のコスト負担はないため、最小限のコストで事業実施している。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	市、地域団体、市民が一体となり、積極的に当事業に取り組んでいることから、環境美化、コミュニティ醸成とも十分な効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	10 / 10	→	100点換算	100 点
----	---------	---	--------	-------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	現状維持が適切である。
---------------------------------------	-------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94699	地域文化芸術助成事業		担当課	上宝支所 地域振興課	内線	3913
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6	文化振興費		D	その他事業	
	根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	対象者数	3,189 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域に根ざした芸術文化の振興を図り、地域のコミュニティを醸成する。		
概要	事業の実施手法(手段)	たから社会教育運営委員会が開催する文化祭(作品展、芸術発表)に対する補助金の交付		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	たから文化祭 最大入場者数N=370人 延入場者数N=1,270人					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	作品展・芸術発表 出演、出演者数	人	目標値	100	100	100
				実績値	150	150	150
				算出根拠等	達成率(%)	150	150
	成果指標	作品展・芸術発表 延入場者数	人	目標値	1,300	1,300	1,300
				実績値	1,380	1,310	1,270
				算出根拠等	達成率(%)	106	101
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 250	250	250		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		250	250	250		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 73	74	76		
	受益者 上宝支所管内の市民(4月1日現在)		(B) 3,421	3,359	3,283		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	日頃の練習成果を発表する場として、また、地域住民相互が触れ合う場として継続することに対し市民の根強い要望がある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	7次総目標「あらたな文化の創造と振興を図る」を具現化するために、市が財政支援を行うことは妥当である。事業主体はたから社会教育運営委員会であり、当地域唯一の文化振興の行事やイベントを実施する地域住民による団体であることから、事業主体として妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	出演者、出展者、実施団体ともに計画的に準備し開催されており、地域に根差した文化振興、コミュニティ醸成に寄与している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	実施団体に所属する市民の役割により運営されており、必要最小限の経費のみで事業実施されている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	文化活動の場の提供や文化にふれる機会の充実など文化的環境の醸成に寄与している。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		9 / 10	→	100点換算 90 点

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入) ・地域全体のニーズのさらなる高まりに繋げるため、広く参加者の増加を図る必要がある。

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94699	地域文化振興事業		担当課	上宝支所 地域振興課	内線	3913
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6	文化振興費		D	その他事業	
	根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	対象者数	3,189 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	優れた芸能文化に触れる機会の充実を図る。		
概要	事業の実手法(手段)	地域が主体となって取り組む文化振興事業に対する助成金		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	プロスキーヤー・冒険家 三浦雄一郎 文化講演会 入場者数N=205人					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	広報チラシの印刷枚数	枚	目標値	1,500	1,200	1,200
				実績値	1,200	2,350	1,700
	成果指標	算出根拠等	人	達成率(%)	80	196	142
				会場容量に応じた入場者数	目標値	330	330
		算出根拠等		実績値	330	210	205
				達成率(%)	100	64	62
		算出根拠等		目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
		算出根拠等		実績値			
				達成率(%)			
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	1,300	1,300	1,300	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,300	1,300	1,300	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	3,939	6,190	6,341	
	受益者	講演会等参加者数	(B)	330	210	205	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	生活様式の多様化により、地域住民相互のふれあいや世代間交流の場として、誰もが観賞したいと思う優れた文化芸能に触れる機会の充実を図ることは必要である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	7次総目標「あらたな文化の創造と振興を図る」を具現化するために、市が財政支援を行うことは妥当である。事業主体はたから社会教育運営委員会であり、当地域唯一の文化振興の行事やイベントを実施する地域住民による団体であることから、事業主体として妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	最も来場が期待できる中高年女性層が比較的少なかったため目標より少ない入場者数となった。一方で中年男性層の来場者が比較的多く、質の高い多彩な文化に、より多くの地域住民が触れる機会の充実と寄与した。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	実施団体に所属する市民の出役により運営されており、経費のほとんどが出演料であることから、必要最小限の経費のみで事業実施されている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	文化活動の場の提供や文化にふれる機会の充実など文化的環境の醸成に寄与している。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入) ・限られた予算において、最も多く来場が期待できる層が興味を引く内容を企画する必要がある。

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94799	文化財標柱設置事業		担当課	上宝支所 地域振興課	内線	3913
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	文化財費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・文化財標柱の設置により、市民に対する文化財の周知を行い、文化財に対する理解と保護意識の高揚を図る。 ・上宝ふるさと歴史館において特別展を開催することにより、郷土の文化や歴史等を広く周知する		
概要	事業の実施手法(手段)	・文化財案内標柱と看板の製作委託 ・ふるさと歴史館での特別展		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	文化財標柱設置 N=2 文化財周知看板 N=2 ふるさと歴史館特別展(写真展「我がふるさとの今昔」)101日間					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	文化財案内看板設置に伴う検討会開催回数	回	目標値	18	10	10
		算出根拠等	本庁・土地所有者・業者との打合せ検討回数	実績値	10	10	25
		達成率(%)	56	100	250		
	成果指標	文化財案内標柱、看板設置数	個	目標値	5	5	5
		算出根拠等		実績値	3	3	4
		達成率(%)	60	60	80		
	算出根拠等			目標値			
	算出根拠等			実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
	算出根拠等			実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
算出根拠等			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 927	908	948		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		927	908	948		
コスト指標		受益者1件当たり(円)	(A/B) 10	10	10		
受益者		全市民	(B) 92,861	92,097	91,605		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	貴重な文化財を守り続けるために、また、広く住民に周知するために必要であり、ニーズがある
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	文化財の説明看板は高山市文化財保護条例で設置がうたわれており、市が中心となって設置する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	計画的に内容を精査しつつ標柱・看板を設置し、広く市民に文化財の存在を周知している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	石柱と同等以上の耐久性、加工性をもち、かつ安価な材料があればコスト縮減に繋がる
		B (1) 事業効率化・コスト縮減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	計画的に標柱・看板を設置し、整備を進めている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	6 / 10	→	100点換算	60 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・設置により盗難被害を誘発する文化財を除き、H26で整備完了
---------------------------------------	--------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	95199	地域スポーツ振興事業	担当課	上宝支所 地域振興課	内線
	95199				3913
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	5 保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 体育総務費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	対象者数	3,189 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	上宝町・奥飛騨温泉郷の両町民を対象として、スポーツ交流事業を実施することにより、地域の連携と活性化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	地域スポーツ大会、スポーツ交流イベントの開催(主催 上宝町・奥飛騨温泉郷の両町民を対象として、スポーツ交流事業を実施することにより、地域の連携と活性化を図る。)		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・スポーツ大会及び交流イベント 開催回数 10回 ・参加者総数 854人					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	スポーツ大会等の参加者	人	目標値	420	420	551
				実績値	532	525	854
	成果指標	参加者増加率(前年比)	%	目標値	105	105	105
				実績値	134	99	163
	算出根拠等			達成率(%)	127	125	155
				達成率(%)	105	105	105
	算出根拠等			達成率(%)	128	94	155
				達成率(%)			
算出根拠等			達成率(%)				
			達成率(%)				
算出根拠等			達成率(%)				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 450	450	450		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		450	450	450		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 132	134	137		
	受益者 上宝支所管内の市民(4月1日現在)		(B) 3,421	3,359	3,283		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	ストレス発散や生活習慣病の予防などの心身の健康保持のみならず、大会や交流会を通じた地域住民の世代を超えた交流の場として、子どもから高齢者まで様々な層の参加がある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	7次総目標「誰もが生涯を通じてスポーツに親しむことのできる環境をつくる」を具現化するために市が財政支援することは妥当である。事業主体は、上宝町・奥飛騨温泉郷地域唯一のスポーツ行事であり、地域唯一のスポーツ行事やイベントを実施する地域住民による団体であることから、事業主体として妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	多くの世代が参加しやすいスポーツイベントとなるよう計画されているため、上宝町及び奥飛騨温泉郷地域両方から様々な世代の参加があり、地域間連携に寄与している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	実施団体に所属する市民の役割により運営されており、必要最小限の経費のみで事業実施されている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	誰もが生涯を通じてスポーツに親しむ環境づくり(7次総)に寄与している。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にすることを必要とするかを記入)	・様々な世代、職種の市民がより多く参加できるよう、開催の場所、時期、内容の工夫は必要である。
---------------------------------------	------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	20899	地域財産管理振興事業 (地域生活環境整備事業)	担当課	上宝支所地域振興課	内線	3914
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務管理費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	8 財産管理費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興特別予算事業年次計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	対象者数	3,189 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	用途を廃止して不要施設となっており、老朽化により危険な状態であるため取壊すもの。		
概要	事業の実施手法(手段)	旧上宝公民館取壊し 【建物概要】 鉄筋コンクリート造り2階建(S48建築) 面積1,032㎡(1F643㎡ 2F389㎡)		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 面	H26の実績	旧上宝公民館解体、跡地整地					
	成果 指 標	指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
		旧公共施設の取壊し棟数	棟	目標値	0	0	1
				実績値	0	0	1
		算出根拠等	達成率(%)				100
			目標値				
		算出根拠等	実績値				
			達成率(%)				
		算出根拠等	目標値				
			実績値				
		算出根拠等	達成率(%)				
			目標値				
		算出根拠等	実績値				
			達成率(%)				
		補足事項					
コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	0	0	23,728	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源					23,728	
コスト 指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)			7,228		
指標	受益者	上宝支所管内の市民(4月1日現在)	(B)		3,283		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	使用していない建物で、老朽化し危険であったため、市民からの取壊しの要望が高かった。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市有財産であるため。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	取壊したことにより、危険が排除された。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	入札により、最少のコストで実施した。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	遊休・老朽施設を解体することで、市民の安全確保と跡地の資産価値を高めることができた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	10 / 10	→	100点換算	100 点
----	---------	---	--------	-------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62399	北アルプス飛騨側登山道整備事業	担当課	上宝支所 基盤産業課	内線
種別					3931
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6 商工費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	3 自然公園費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	対象者数	3,189 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・登山道整備による北アルプス登山者の安心・安全確保及び周辺整備		
概要	事業の実施手法(手段)	・北アルプス飛騨側登山道等維持連絡協議会が実施する軽微な修繕では対処できない木道の修繕等、比較的大規模な登山道の修繕を請負にて実施する		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	鍋平登山道修繕 階段工(木製)14段、(石段)8段 鋼製設置工 3箇所 登山道案内看板修繕工 3箇所					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	協議会との打合せ	回	目標値	3	3	3
				実績値	4	3	3
				算出根拠等	達成率(%)	133	100
	活動指標	現地踏査	回	目標値	2	2	2
				実績値	3	2	2
				算出根拠等	達成率(%)	150	100
	成果指標	飛騨側からの登山者数	人	目標値	37,300	39,200	41,200
				実績値	39,938	37,606	42,172
				算出根拠等	達成率(%)	107	96
		登山届提出数		目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
実績値							
算出根拠等				達成率(%)			
補足事項							
・活動指標の交通整理日数は達成率が低い方が良好							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	1,260	1,668	1,544	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,260	1,668	1,544	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	368	497	470	
	受益者		上宝支所管内の市民(4月1日現在)	(B)	3,421	3,359	3,283

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・近年の中高年齢を中心とした登山ブームにより、登山者が安全、安心に登山を楽しむためには登山道の安全確保は重要な課題でありニーズは高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・高校総体開催時に旧上宝村で整備した登山道であるため、市が整備を行う必要がある
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会や奥飛騨温泉郷観光協会へ山の状況等に関する問い合わせはあるが、登山道に関する苦情は入っていないため、整備の効果は上がっている
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・修繕箇所への資材運搬が困難なことや、山小屋から徒歩で行かざるを得ないなど、コスト削減が困難な事業ではあるが、工期を短縮する資材や工法の取り入れを検討することによりコスト削減に取り組んでいる
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・登山道案内看板を修繕したことで登山者に対する安全への啓発が図られたうえ、階段の設置による登山者への負担軽減や登山道の荒廃を防ぐことに寄与している
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にすることを何が必要なのかを記入)	・登山道の抜本的な改良工事は、計画的に別予算で実施する必要がある
----------------------------------------	----------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	72399	市道改良事業		担当課	上宝支所 基盤産業課	内線
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	7	土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2	道路橋りょう費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	3	道路新設改良費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝町住民及び市街地への通勤者	対象者数	500 戸
	どういった状態にしたいのか(意図)	地域からの要望も多く、合併後も通行量が増大している上宝町と高山市街地を最短で結ぶ市道上宝丹生川線の視距改良、法面改良及び待避所を設置し、安全に通行できるよう整備する。		
概要	事業の実施手法(手段)	視距改良(カーブ改良) 6箇所 L=180m 法面改良 6箇所 L=120m 待避所設置 4箇所		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	法面改良(コンクリート吹付工) 2箇所 A=274m2 待避所設置(路盤工) 1箇所 A=54m2					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	視距改良・法面改良・待避所設置	箇所	目標値	1	2	2
				実績値	1	2	3
	成果指標	交通事故発生件数	件	目標値	0	0	0
				実績値	0	0	0
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	150
				達成率(%)			
	算出根拠等			達成率(%)			
				達成率(%)			
	算出根拠等			達成率(%)			
				達成率(%)			
	算出根拠等			達成率(%)			
				達成率(%)			
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	1,890	4,830	3,953	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,890	4,830	3,953	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	3,780	9,660	7,906	
	受益者	地元住民(戸数)	(B)	500	500	500	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・当該道路は上宝地区から高山市街地を含む市西部地区への最短ルートであり、双方方向への通勤時の利用が多い。 ・毎年地元地区から改良継続の要望が出されている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	道路管理者として維持・防災・安全工事は必要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	視距の改良、落石等の防除により安全な通行に寄与している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	現場発生土を待避所の不陸整理に再利用するなど、コスト削減に努めている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	局部改良のため、当事業実施により所要時間の短縮等にはならないが、上宝支所地域と市街地を結ぶ市道としては唯一の路線であるため、利用者の安心・安全の確保が公約実現につながっている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・改良が進み交通量が増加した場合の交通安全対策や駒鼻峠から丹生川側の改良が今以上に必要となる。
---------------------------------------	-------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	54199	高原土地改良区水路管理助成事業	担当課	上宝支所 基盤産業課	内線
種別					3931
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	5 農林水産費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	4 農業土木		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 農業土木総務費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝地区住民	対象者数	1,218 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・受益面積約185haの高原用水の維持管理費を助成することにより、農業用水路の適正利用と農業生産性の向上を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	・高原土地改良区が行う高原用水の維持管理事業に対する助成		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・施設の見回り点検 ・施設の補修					
	指標名 単位 目標・実績 H24 H25 H26						
	活動指標	見回り・点検回数	回	目標値	300	300	300
				実績値	290	284	278
				算出根拠等	達成率(%)	97	95
	成果指標	断水回数	回	目標値	0	0	0
				実績値	0	0	0
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
実績値							
算出根拠等				達成率(%)			
補足事項							
・断水回数は自然災害や計画的なものを除く施設の突発事故等による回数を計上							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 700	700	700		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		700	700	700		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 549	570	575		
	受益者	上宝地区の住民(4月1日現在)	(B) 1,276	1,229	1,218		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・近年では、米を始めとした生産物が市場では高品質として高い評価を得ており、地域農業の活性化や生活を支える生産額の向上に繋がっている
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・事業主体は高原土地改良区であり、維持管理経費の助成を行うことは妥当である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分に繋がっている	A	・営農者のみならず、非営農者を含む日常生活用水や冬期における融雪用水としても利用されていることから、成果としては上がっている
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・限られた予算であるため、事業主体は事業コストの削減に努力している
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・上宝地域では農地の集約化や6次産業化など主要な農業施策に積極的に取り組んでいる地域であり、農業用水の安定的な供給は施策の実現には欠かせないものである
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	73199	しのぶ砂防ダム管理事業		担当課	上宝支所 基盤産業課	内線	3941
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 予算 の 目	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	3	河川費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	河川維持費		O	D その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	地元住民(一重ヶ根・村上)	対象者数	500 戸
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	奥飛騨温泉郷一重ヶ根地内にある「しのぶ砂防ダム」は、誰でも気軽にダムの中に入り見学できる砂防学習施設となっている。施設見学者(観光客等)へのイメージを落とさないようダム内歩道の照明及び水車等の管理を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	しのぶ砂防ダム内歩道及び水車等の管理業務、付近の清掃等及び照明灯の維持管理		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	しのぶ砂防ダム親水公園内にある水車小屋及び周辺を4~11月にかけて48回(1回/週を基準に観光シーズン中は増加)の清掃・管理を実施した。					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	しのぶダムの管理業務	人	目標値	144	144	144
	指標	算出根拠等		実績値	144	144	144
		算出根拠等	48日×3人=144人	達成率(%)	100	100	100
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等		達成率(%)				
			目標値				
			実績値				
	算出根拠等		達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 156	116	161		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		156	116	161		
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 312	232	322		
	受益者	地元住民(戸数)	(B) 500	500	500		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・しのぶ砂防ダムは全国で唯一堤内を歩いて通ることができる砂防ダムで、周囲には親水公園を整備しており、観光客や地域の住民に親しまれている。また、同公園を中心としたイベントも多数実施されている。 ・地元小中学生の砂防学習の場として活用されており、周辺を含めた環境整備は必要なことである。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	高山市が所有し維持管理を行っている施設であり、市が事業主体となって管理を行うことは妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・親水公園として地元住民のみならず観光客にも親しまれており、同公園を中心とした観光イベント等が開催されるなど、同事業の実施は公園のイメージアップに貢献している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・水車小屋及びその周辺以外の管理は地元住民が実施しており、市の負担は必要最小限のものとなっている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 8	→	100点換算	88 点
----	-------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・水車を撤去したため、事業はH26年度で終了するが、今後は施設の譲渡等を含めた管理方法を地元と協議する必要がある。
---------------------------------------	-----------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	92299	地域小学校教育振興事業 (瀬浦小学校交流推進事業)	担当課	上宝支所 地域振興課	内線 3913
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 小学校費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	2 教育振興費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	本郷小・栃尾小4年生と引率者	対象者数	24 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	水見市立瀬浦小学校と、本郷小学校、栃尾小学校の4年生が海の子山の子交流を行うことにより、社会性を育む課外授業として児童の教育効果の向上に資する。		
概要	事業の実施手法(手段)	水見市立瀬浦小学校へ訪問する経費に対する補助金		

2 事業の推移・結果(Do)

目的	H26の実績	海の子山の子交流事業 平成26年7月15日(火)から平成26年7月16日(水)まで 1泊2日 参加人数 N=24(小学生 N=20 補助対象引率者 N=4) ※別途、当該補助対象外の引率者が2名参加				
	指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
活動指標	本郷小・栃尾小4年生と引率者数	人	目標値	30	29	26
	算出根拠等		実績値	29	29	24
成果指標	交流事業参加児童割合	%	達成率(%)	97	100	92
	算出根拠等		目標値	100	100	100
成果面			実績値	100	100	100
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	100
成果面			目標値			
	算出根拠等		実績値			
成果面			達成率(%)			
	算出根拠等		目標値			
成果面			実績値			
	算出根拠等		達成率(%)			
成果面			目標値			
	算出根拠等		実績値			
成果面			達成率(%)			
	算出根拠等		目標値			
成果面			実績値			
	算出根拠等		達成率(%)			
補足事項						
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額	
	歳出(千円)	(A)	300	300	283	
	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		300	300	283	
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	10,345	10,345	11,792	
	受益者	事業参加者	(B)	29	29	24

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	異なる社会環境の中で課外学習を行うことは、児童自らが学び考え行動する力を育み、今後さらに進行する高齢化社会を担う人材育成に繋がることから、高齢化率の上昇とともに、ニーズは高まっていく。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	事業主体は、当事業に参加する2校(本郷小学校、栃尾小学校)で構成する任意団体であり、児童の課外学習の実施主体として妥当である。また、市が事業の助成を行うことは7次総目標「体験学習、学校間の交流などの個性や能力を伸ばす教育を行う」の具現化に繋がり、妥当である。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	児童の教育の一環として実施する事業であり、将来に渡って児童の成長とともに成果が表れるものであるため、短期的且つ定量的な成果の評価は主旨にそぐわないが、過疎地域に居住し少人数で学習している児童が、都市部では当たり前の「多様な人との交流」を通じて社会性を育む事業として有効である。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	経費の大半は交通費と宿泊費であり、これ以上の事業費削減は困難である。しかし、参加者負担金があるものの、受益者が限定されており、他地域の学校との均衡を考慮すると、受益者負担の割合を増やす必要がある。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	体験学習、学校間の交流など個性や能力を伸ばす教育を行う(7次総)に寄与している。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		9 / 10	→	100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)

・H27以降の当該事業の在り方について、学校と保護者及び相手校との協議を行うとともに、全市域的な均衡に配慮しつつ方向性を定める必要がある。

(参考)
H26事業評価結果 (二次評価)

26年度終了

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 27年度の対応状況

26年度終了

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	20999	地域振興助成事業		担当課	上宝支所 地域振興課	内線	3911
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画課		O	その他事業	
根拠計画							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	対象者数	3,189 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進するため、市民自らが主体となって取組む地域振興事業を支援する。		
概要	事業の実施手法(手段)	地域住民が自主的、主体的に取組む公共性の高い地域づくり事業への補助金		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 面	H26の実績	合計17件 【内訳】 ・市道草刈等の景観保全 (12件) ・公園整備・管理 (2件) ・道路修繕・管理 (3件)					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動 指標	補助金交付要望件数	件	目標値	30	29	15
		算出根拠等	事前要望の受付件数	実績値	29	27	17
		達成率(%)		97	93	113	
	活動 指標	補助金交付要望件数	件	目標値	22	22	15
		算出根拠等	採択事業への補助金交付件数	実績値	26	27	17
		達成率(%)		118	123	113	
	成果 指標	補助金受益対象者数	人	目標値		3,359	3,189
		算出根拠等	受益者/地域住民	実績値		2,812	2,739
		達成率(%)				84	86
		算出根拠等		目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
			実績値				
	算出根拠等		達成率(%)				
補足事項							
コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	4,444	5,426	2,500	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			4,444	5,426	2,500	
コスト 指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	1,299	1,615	761		
	受益者	上宝支所管内の市民(4月1日現在)	(B)	3,421	3,359	3,283	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・住民自らが主体となって地域づくりを行う上での市民ニーズは高く、地域力の向上と地域への潤いを与える事業としての重要度も非常に高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・地域力の向上と地域活性化を推進するための事業であることから、市民の活動を市が支援する必要性は高い。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・市民自らが労役提供することで、生活環境の改善や地域の活性化を図るといふ住民意識の高まりにより、地域における新たな住環境づくりに有効である。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・要望事業の必要性や緊急度を十分精査するとともに、事業コストの妥当性にも配慮しながら実施した。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・市長公約である「地域の個性あるまちづくりと、地域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取組む活動」を具現化する施策として有効である。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・地域からの要望は高いが、事業の必要性や重要度、また採択事業に対する事業コストや効率化に配慮し実施する必要がある。
----------------------------------------	-----------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	20999	地域要望対応事業		担当課	上宝支所 地域振興課	内線
	種別					3911
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1	総務管理費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	9	企画課		D	その他事業
根拠計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	対象者数	3,189 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	即応性が求められるため、市有施設の修繕に対し迅速に対応する。		
概要	事業の実手法(手段)	市道、農道、林道、水路等の公共施設の軽微な修繕		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	合計 7件 【内訳】 ・市道、林道等の舗装修繕 (3件) ・水路、側溝等の修繕 (2件) その他 (2件)					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	施設修繕の実施件数	件	目標値	20	20	12
				実績値	14	12	7
	活動指標	算出根拠等	達成率(%)	目標値	100	100	100
				実績値	100	100	86
	活動指標	即応性(要望から1ヶ月以内に実施した率)	%	目標値	100	100	100
				実績値	100	100	86
	活動指標	算出根拠等	達成率(%)	目標値	100	100	86
				実績値	100	100	86
	活動指標	算出根拠等	達成率(%)	目標値			
				実績値			
	活動指標	算出根拠等	達成率(%)	目標値			
				実績値			
	活動指標	算出根拠等	達成率(%)	目標値			
実績値							
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 3,926	8,171	4,677		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		3,926	8,171	4,677		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/ B) 1,148	2,433	1,425		
	受益者 上宝支所管内の市民(4月1日現在)		(B) 3,421	3,359	3,283		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域からの要望に対し、迅速に対応する事業であることから、市民及び地域からのニーズは非常に高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設や公共施設等における軽微な修繕であることから、市民や地域からの要望に対し、市が実施する必要性は高い。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・市民や地域からの要望に即応する事業としての有効性は高く即効的な事業効果が高い。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・事業の必要性と費用対効果を精査し、事業の効率化やコスト削減に配慮しつつ事業を実施している。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・市民の安全、安心、快適な住環境づくりの実現を図るための政策として有効であり、市民からの要望に対し即応性をもって対応できる事業としての効果は高い。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・市民からの要望に対する事業の必要性や困難度、重要度について精査を行い、採択事業の効率化を考え即応性を持って実施する必要がある。
----------------------------------------	------------------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定